沖縄県小児保健協会紹介動画の作成

沖縄県小児保健協会は、1973（昭和48）年に創立され、これまで県、市町村、関係団体、そして多職種が連携しながら、小児保健活動を推進してきました。乳幼児健康診査事業をはじめ、こどもたちの健やかな成長を支えるさまざまな取り組みを行っています。これからも、時代の変化に対応しながら、沖縄県のこども一人ひとりが健やかに成長できるよう、事業を展開していきます。

今回、創立50周年を記念し、今後の沖縄の小児保健を支える多職種の皆さまをはじめ、より多くの方々に協会の活動を周知し、共に取り組んでいただきたいという思いを込めて、紹介動画を制作しました。

沖縄県小児保健協会「紹介動画」はQRコードを読み取りご覧ください。

沖縄県小児保健協会 検索

導入～タイトル前まで

沖縄県小児保健協会は、医師や看護師、栄養士など、小児保健に関わる様々な職種が連携し、沖縄のこどもたちの健康と未来を支えています。

1973年7月28日 学術団体として発足

原点への振り返り

1973(昭和48)年7月28日、沖縄県小児保健協会は、こどもたちの健やかな育成に寄与することを目的に発足しました。

初期の乳幼児健診の様子

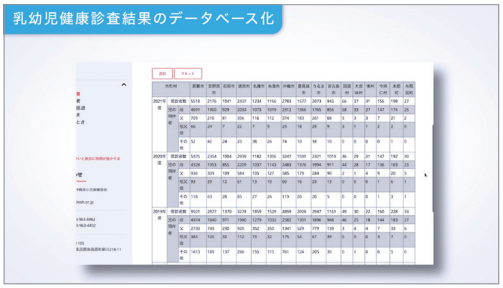
当時の乳幼児健診の様子

乳児一般健康診査は、1973(昭和48)年11月、東風原村を皮切りに、沖縄独自の集団健診方式で始まりました。離島を含む全市町村で健診を実施してきました。

多職種で行われる乳幼児健康診査

多職種で行われる乳幼児健康診査

乳幼児健診は、現在も集団健診方式で実施。診察は小児科医によって行われています。



乳幼児健康診査結果のデータベース化

当協会では、過去15年間の健診結果をデータベースとしてまとめ、ホームページの会員専用ページで情報を公開しています。

学術集会及び研修会等の開催

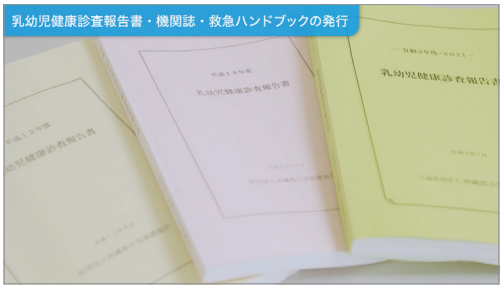
学術集会や研修会などを定期的に実施しています。2021(令和3)年には、第68回日本小児保健協会学術集会が沖縄で行われました。

各種委員会活動

こどもの生活習慣について専門職が5つの委員会を設け、さまざまな角度から、こどもたちの健康を支援しています。

親子健康手帳の製作

1992(平成4)年からは、市町村で公布される母子健康手帳を当協会が作成し市町村に販売。2009（平成21）年には名称を「親子健康手帳」に改めました。



報告書・機関誌・救急ハンドブックの発行

健診結果をまとめた報告書や、1974（昭和49）年から発行している機関誌は市町村や関係機関へ提供しています。

沖縄県はしか“0”プロジェクト

2001（平成13）年に「はしかゼロプロジェクト」を立ち上げ、予防接種の重要性を呼びかけています。

エンディング ①

発足から50年。沖縄県小児保健協会は、小児保健に関わる様々な職種が連携し、沖縄のこどもたちの健康と未来を支えてきました。

エンディング ②

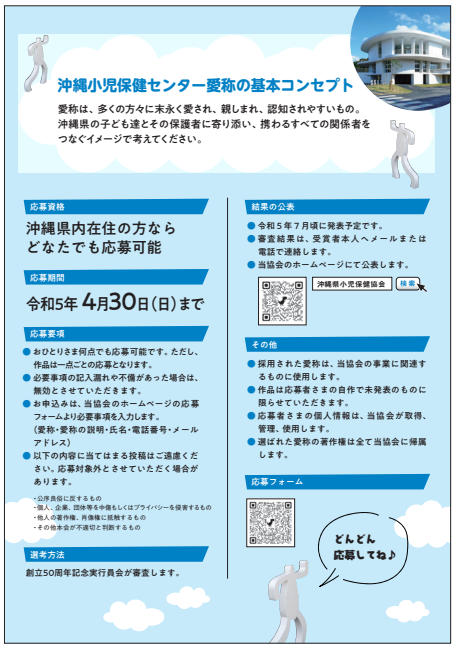
すべてのこどもたちが健やかに成長できるよう、沖縄の小児保健のレベル向上を目指して、沖縄のこどもたちのために活動していきます。

沖縄小児保健センターの愛称募集

2008（平成20）年、沖縄県南風原町新川に念願の「沖縄小児保健センター」が完成しました。本センターには200名を収容できるホールがあり、小児保健や母子保健に関わる多くの専門職の方々を対象とした研修会や、市民向けの公開講座を開催し地域に根ざした活動を続けています。

今回、創立50周年を記念し、多職種が協力しながら、沖縄県のこどもたちのために何ができるかを共に考え、小児保健の中心拠点として地域に親しまれる施設を目指し、愛称を募集しました。

表面



裏面

コンセプト

愛称は、多くの方々に末永く愛され、親しまれ、認知されやすいもの。
沖縄県のこども達とその保護者に寄り添い、携わるすべての関係者をつなぐイメージ。

沖縄小児保健センターの愛称が「こっぽKoPHO」に決定!

創立50周年の節目を迎えるにあたり、沖縄小児保健センターの愛称の募集を行ったところ多くの皆様からの温かいご応募を賜りました。審査を重ねた結果、名護療育医療センターに勤める仲本千佳子さんが考案した、「こっぽ KoPHO」に決定致しました。

これからも、多職種の方々が和となって、こどもたちの健康と次の50年の未来を拓いていく小児保健の中心拠点として、活動してまいりますのでよろしくお願い致します。

受賞者

仲本千佳子さん(名護療育医療センター)

最優秀賞作品

沖縄小児保健センター
こっぽ KoPHO

2023(令和5)年7月30日に行われた表彰式の様子

こっぽ
KoPHO
沖縄小児保健センター

こっぽ KoPHOの由来

★ 小児の「子」と、保健の「保」を組み合わせ、沖縄県小児保健協会のシンボルマークである鳩をイメージしてつけられました。

★ アルファベット表記のKoPHOは、英語の「Kodomo Primary Health Organization」の頭文字から生まれました。

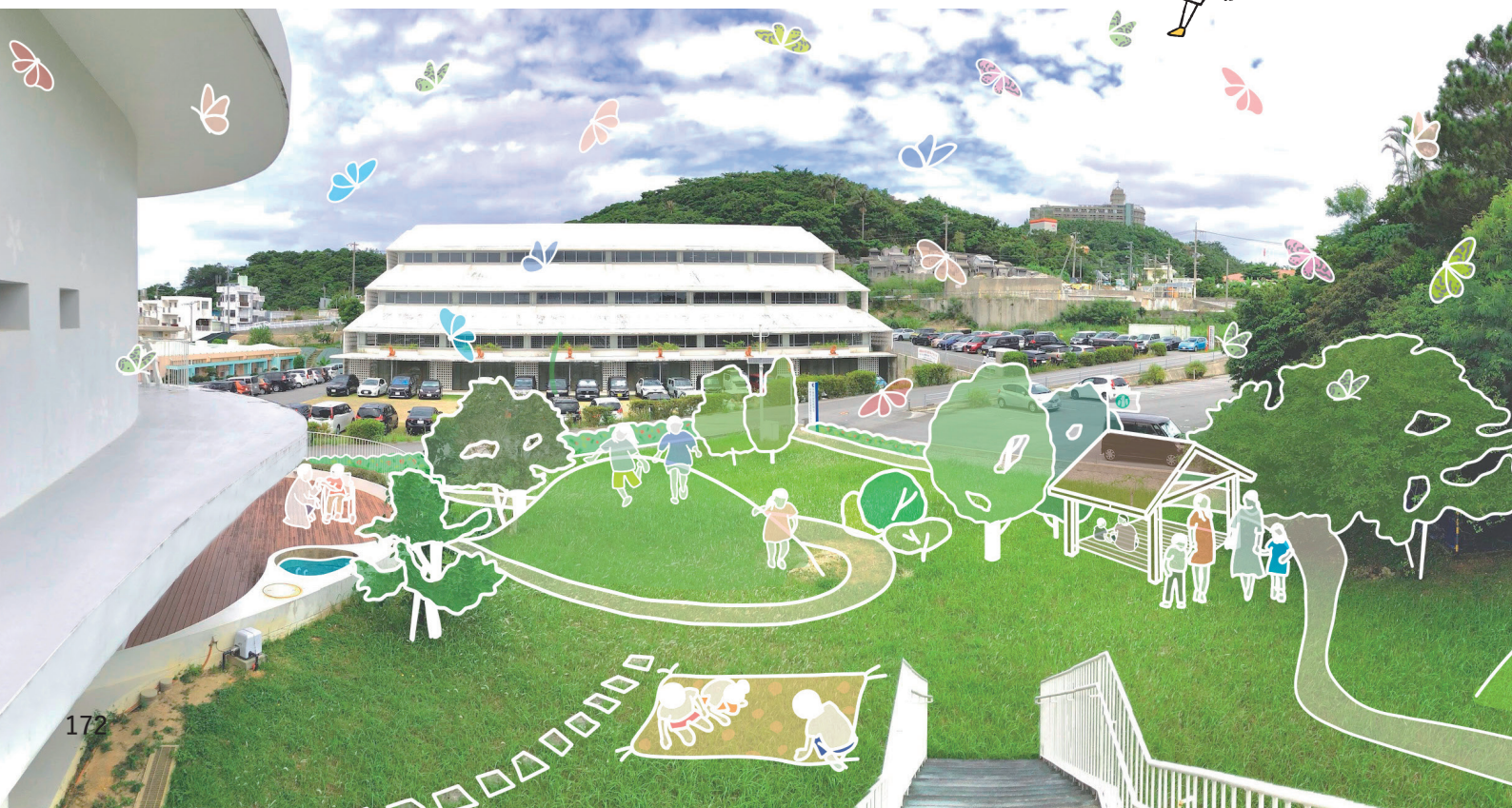
こっぽKoPHOの庭の活用

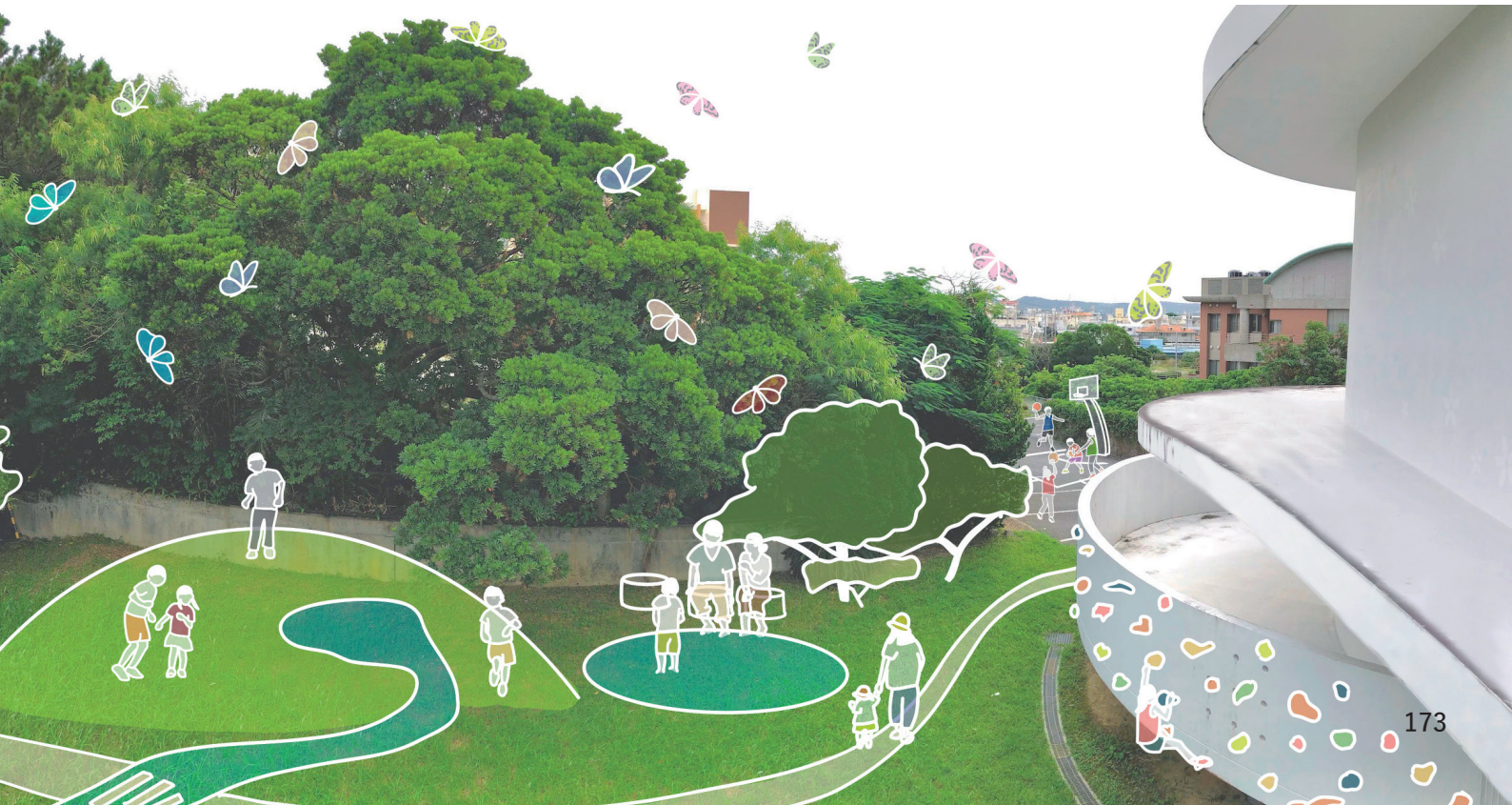
2008（平成20）年、沖縄県南風原町に完成した沖縄小児保健センターが、地域の皆さまにとってより親しみやすい場所となるように、創立50周年記念事業の一環としてお庭の活用を検討しました。現在、具体的なお庭の工事着工はまだ決まっておりませんが、まずはどのようなお庭が理想的か、そのイメージをパース図やイラストで表現しました。

お庭のコンセプト図作成の経緯

お庭のパース図作成は、宮城雅也会長の「夢や希望が感じられる庭を作りたい」という想いから始まりました。会長は、子どもたちが自然と触れ合いながら遊び、創造性を育む場を提供するために、運動・遊び小委員会に、庭のコンセプト作成を依頼しました。また、庭と建物が一体化したデザインを目指すため、こっぽKoPHO（小児保健センター）の設計を担当した細矢仁さんにパース図を作成していただきました。

保健センターの建物と庭が調和した空間が創出され、こどもたちが自由に遊びながら創造性を育む理想的な環境が具体化されました。





未来を紡ぐ、創造と驚きのお庭

このお庭は、こどもたちがのびのびと遊びながら、自然に触れて創造性を育む場所として設計致しました。水遊びができる場所や、泥んこ遊びを楽しめる築山、さらには木々の影が優しく包む休憩スペースが点在しています。親御さんたちが子を安心して見守り、ゆっくりと過ごせるエリアも設けられており、世代を超えた触れ合いの場を提供します。

また、遊びの中で、こどもたちはただ楽しむだけでなく、①『自然の中で発見し、感じ、想像力を膨らませる』それは『消費する遊びではなく、世界に触れ、感じて、何かを創造することを楽しむお庭』の想いを込めて設計しました。

さらに、②『センス・オブ・ワンダーを、親と一緒に分かち合い、何だか分からないけど何かが潜んでいる世界を楽しめるお庭』の想いも込めることで、親子で自然の不思議や驚きを一緒に感じ、未知の世界に触れるワクワク感を分かち合えるお庭にして、こどもたちの好奇心を引き出すことを目指しています。

天候に左右されずに楽しめる屋根付きのスペースもあり、季節を問わず、様々な体験ができるこの庭で、こどもたちの明るい未来を象徴する、笑顔あふれるひとときが広がることを願っています。

パース作成に関わった方々

＊ 細矢 仁（一級建築士事務所 細矢仁建築設計事務所）

＊ 運動・遊び小委員会
垣花 道朗・吉葉 研司・仲本 千佳子・羽地 知香・勝連 啓介・山本 隆

＊ 木漏れ日喫茶
じゅんじゅん（玉城 純）・まこけ（玉城 真）・masa（山本 雅子）・
バムちゃん（羽地 知香）・ひとみさん（竹本 瞳）